

報告

箱崎の芸術祭「BLUE WAY 2024」での取り組みについて

About the works “BLUE WAY 2024” Art Festival in
Hakozaki

P29-33

中谷 正史

NAKATANI Masashi

造形芸術学科

1. はじめに

九州産業大学造形短期大学部（以下、本学）では、企業や地域社会と協働しながら社会課題を解決する「学外アートプロジェクト」を必修科目とし、学生の行動力、共創力、人間力を高めていく「プロジェクト型教育」を推進している。

本稿では、2024年12月に宮崎宮参道で開催された参加型の芸術祭「BLUE WAY 2024」¹での、記録映像制作とワークショップ実施の報告を行う。



図01 BLUE WAY 2024 ライブペインティングの様子

2. 実施概要

「BLUE WAY 2024 - 私たちが創造する青の道 -」（主催：箱〇堂実行委員会）は、千年以上の歴史と伝統を誇る福岡市東区箱崎の宮崎宮参道で2024年12月1日（日）に開催された。

宮崎宮参道をイベント会場として、箱崎の新しいにぎわいの空間と時間をつくる地元有志のグループ・箱〇堂²と、箱崎在住で「記憶と時間の可視化」をテーマに活動する九州産業大学芸術学部出身のアーティスト・銀ソーダ³が共同企画。



図02 パフォーマンスを行ったアーティスト・銀ソーダ

東区芸術文化祭の一環として、東区役所総務部企画振興課、なみきスクエア、九州大学総合研究博物館（以下、九大博物館）、九州産業大学造形短期大学部中谷研究室、福岡女学院大学金沢ゼミ、大學湯、地元アーティストやクリエイター、企業、個人などがイベントに協力した。主催者がかかげる、芸術の多角的な視点からさまざまな気づきが生まれ、まちに循環していくこと、

箱崎に芸術の輪を広げ、今とこれからの箱崎のまちをつないでいく芸術祭を目指すという趣旨に筆者も賛同し、9月ごろから参加学生を募り、実行委員会に参加するなどして準備を進めた。

メイン企画は、銀ソーダが宮崎宮参道に青の道を描く200メートルのライブペイントパフォーマンス。九州大学の跡地開発で変わりゆく箱崎に、可能性の青を彩り、自分たちのまちを創造していきたいという思いが込められている。また参加型企画として、箱崎のまちの人々の思いを集め紡ぐ絵馬風ボールの制作、箱崎の昔の写真を収集して人々の記憶の断片として青写真で展示する「九大博物館×BLUE WAY ハコザキブループリントプロジェクト」（青写真ワークショップ）、アーティストやクリエイターによるワークショップや展示、トークセッションが行われた。

芸術祭の開催は2回目。筆者は、2023年11月25日（土）に開催された1回目の「BLUE WAY 2023」の記録映像制作⁴から参加している。今回は、ライブペイントパフォーマンスとトークセッションの記録映像撮影と、九大博物館と連携した青写真ワークショップを、2つの学生チームで担当した。



図03 記録映像撮影チームの学生



図04 青写真ワークショップチームの学生

3. BLUE WAY 2024 記録映像制作

2023年の記録映像は、朝の準備からライブペインティングの実施と撤収、日没までタイムラプス撮影を行い、記録映像を制作した。2回目となる今回は、パフォーマンス中のアーティス

トの想いを映像で伝えるために、ライブペインティングのタイムラプス撮影をベースに、パフォーマンスの様子をジンバルで撮影することにした。さらに 200 メートルのペインティングのスケール感や全体像が伝わるよう、360 度カメラを 3 メートルの一脚に搭載してドローン風の空撮映像の撮影を行った。当日は学生に撮影指導を行いながら、各パートの撮影をライブペインティングに合わせてリアルタイムで行い、予定通りに撮影を終えた。また、イベント後に行われたアーティストのトークセッションの記録撮影も行い、参加学生たちも聴講した。



図 05 タイムラプス撮影の様子



図 06 トークセッション撮影の様子

記録映像の編集は筆者が行い、完成映像は 12 月末に銀ソーダ YouTube チャンネルで公開⁵された。

4. 青写真ワークショップ

「九大博物館×BLUE WAY ハコザキブループリントプロジェクト」として、さまざまな人から過去の箱崎の写真を集めてヒアリングを行う作業と、それらをサイアノタイプ⁶という写真の古典技法を使って青写真を作成し、箱崎の「記憶の海」を出現させる作品の企画が進んでいる。その制作過程の中で、筆者は写真データに青写真用のネガフィルム風加工を行う工程に協力。今回は約 50 枚の写真を学生と共にデジタル加工した。

また、筆者が 2024 年 8 月に筑後市の羽犬塚諏訪神社八朔大祭で銀ソーダと青写真ワークショップを行った経緯から、本イ

ベントでの青写真ワークショップ運営にも協力。九州大学の三島美佐子教授⁷と連携し、九大博物館や大學湯⁸で、箱〇堂実行委員会メンバーの地元有志の方や九州大学の学生とともに、展示用の青写真の作品制作やワークショップの準備を行った。



図 07 青写真用のネガフィルム風加工をしたシート



図 08 大學湯の軒先で作品展示用の青写真をプリント



図 09 大學湯で事前準備を行ったスタッフと学生たち

当日は、事前に集めた箱崎の古い写真をポストカードサイズの青写真にプリントして持ち帰ってもらうワークショップを実施。九州大学の学生が、参加者が持ち込んだ昔の箱崎の写真のデータ整理とエピソードのヒアリング・記録を行い、本学の学生チームは、参加者が青写真をプリントする体験型のワークショップを行う際のレクチャーとサポートを担当した。青写真ワークショップには一般の方 12 名が参加した。



図 10 九大博物館で九州大学の学生たちと事前打合せ



図 11 当日展示された青写真を組み合わせたインスタレーション作品



図 12 青写真ワークショップ参加者にレクチャーする学生



図 13 青写真によって現れた昔の宮崎宮の写真

イベント終了後の12月末に、アーティスト・銀ソーダ、九州大学と九州産業大学造形短期大学部の教員と学生を交えて、オンラインでプロジェクト参加の感想の共有やワークショップの振り返りを行った。



図 14 オンラインでワークショップを振り返る学生たち

5. まとめ

本プロジェクトは、筆者がKSUプロジェクト型教育で取り組んでいる「箱崎SDGsデザインプロジェクト」で知り合った箱崎の人たちとの縁から発生したプロジェクトのひとつである。九州産業大学芸術学部卒業生のアーティスト・銀ソーダを中心に、彼女の活動を見守り、応援する箱崎の人たちと、そこから広がる大きな輪の中に本学の学生も加わり、協働することとなった。



図 15 BLUE WAY 2024 スタッフ集合写真

1年に1回開催が予定されている歴史と芸術が交わる箱崎の芸術祭から何が生まれていくのか。今後も継続的に参加し、私自身もそのプロセスに身を置きながら考え、記録していく必要性を感じている。またその中で本プロジェクトが、本学の学生にとっても新たな出会いと、何かが生まれる場となれば幸いである。

リファレンス

1 BLUE WAY 2024 - 私たちが創造する青の道 -
<https://www.hakomarudo.com/blue-way-2024>
<https://www.instagram.com/hakomarudo/>

2 箱〇堂 Web サイト
<https://www.hakomarudo.com/>

3 アーティスト・銀ソーダ
https://www.instagram.com/gin_soda_46/

4 【PV】BLUE WAY - 私たちが創造する青の道 - vol.1
<https://youtu.be/4pBQrKqbUkM>

5 【PV】BLUE WAY - 私たちが創造する青の道 - 2024 vol.1
<https://youtu.be/fS3guudDESc>

6 サイアノタイプ
 クエン酸鉄 (III) アンモニウムとフェリシアン化カリウムという薬品を
 水で溶いたものを紙に塗布し、ネガフィルムを重ねて紫外線で感光
 させる写真のプリント技法

7 九州大学総合研究博物館 教授 三島 美佐子
https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/html/100024462_ja.html

8 大學湯
<https://www.instagram.com/daigakuyu07/>



BLUE WAY 2024 パンフレット

映像作品介绍

BLUE WAY - 私たちが創造する青の道 - 2024



制作年 2024 年 12 月
 本 編 3 分 15 秒
 企画・ディレクション・編集 中谷 正史
 撮影 中谷 正史、藤田 亨哉、瀬織 翔太郎
 スチール撮影 赤崎 梢
 ワークショップ 鬼塚脇 綺羅、西山 蒼乃、三島 璃歩、吉田 茉生

